

平成24年度地域振興戦略事業調整費 事業結果一覧表

佐渡地域振興局

事業名	実施目的	事業内容	事業費 (千円)	事業評価及び今後の方針
01 産業活性化に向けた調査・研究事業	島内企業が有するシーズ、方向性を把握し、今後の取り組みべき方向性を検討する。	コミュニケーションスキルアップ研修会 ・講演「従業員がもっと輝けば！会社がさらに元気になる！！」 ・講師：曾根真紀子（産業カウンセラー）	193	【成果・効果】 ・職場でのコミュニケーションについて、意思疎通の難しさや相手の話を聞く態度の重要性などについて体験重視で実感してもらうことができた。 ・開催日3/7 参加者：22人 【問題点・改善点】 ・島内企業の事業主が求める内容についての把握が必要 ・開催時期・時間等について、より参加しやすい工夫が必要 【今後の方針】 ・島内企業の事業主が求める内容についての把握に努めるとともに、関係機関との協議などを行い、効果的な事業実施を検討する。
02 まるごとフルーツの島づくり推進事業	フルーツ生産者と観光関連業者との連携の新たな仕組みを構築するとともに、佐渡の新しいフルーツを発掘・育成し農家所得を確保する。	1 佐渡産スイーツ活用・おもてなし促進事業 (1) 地域産品販売組織の育成・支援 (2) 柿ドレッシング商品化への開発支援 (3) 新たな商品づくり調査 2 フルーツ発掘・産地化 (1) 産地化に向けた果実・果実加工品の発掘 (2) 有利販売のための直売方法の検討	680	【成果・効果】 1 佐渡産フルーツ活用・おもてなし促進事業 ・外部講師を招き、地域産品を活用した商品の開発・販売に関心のある農業者、加工製造業者等に対して、商品の開発から販売までに必要な一連の流れを学習した。 ・地域産品を取り扱う事を目的に設立された法人をモデル事業者と位置付け、自主的活動が円滑に行われるよう支援するとともに、一連の流れを手順書として取りまとめた。 ・佐渡市消費者協会の協力を得て消費動向調査を実施した。 2 フルーツ発掘・産地化 ・新たな商品開発に関する実証を行った。 ・直売所が主催するイベントが円滑に行われるよう指導した。 ・市内の直売に関する情報をとりまとめ、直売所マップを作成した。 【問題点・改善点】 1 佐渡産フルーツ活用・おもてなし促進事業 ・モデル的に実施した商品開発の作業が遅れ、販売開始まで結びつけられなかった。 2 新たな農産物商品の発掘・販売促進事業 ・多くのフルーツを生産している地域の特色を周知しきれなかった。 【今後の方針】 ・本事業で得られた商品開発のノウハウや直売所の情報を広く周知し、フルーツ産地の付加価値向上に繋げる。
03 新鮮おさかな活用事業	低利用水産物の観光業における活用に向けて、加工品の商品化を推進するとともに、佐渡の代表魚種ウスメバルの品質向上に取り組む。	1 佐渡産魚介類の観光客への提供 ・南蛮エビメニューの検討、飲食店等への働きかけ、美佐渡会等の意見交換 2 佐渡産魚介類の島内消費拡大 ・南蛮エビの取扱店の拡大等の働きかけ	313	【成果・効果】 ・夏季の観光トップシーズンにおいて、これまでにない地場産南蛮エビを利用した料理の提供が開始。 ・観光サイドへの南蛮エビの料理提案を含めた意見交換により、今後の観光客への利用拡大を期待したい。 【問題点・改善点】 ・飲食店、旅館、ホテルなどの利用者側の組織化がなされていないため、統一メニュー等の提案先がなく、利用者側に対する組織化の働きかけが必要。 ・観光産業の需要に応えるための、加工・保管分野の体制作りが必要。 ・島内ニーズに応えるための供給体制の構築が必要(市場取引から相対取引等の仕組み作り) 【今後の方針】 ・観光産業側に対する組織化の働きかけ ・地場産南蛮エビ及び佐渡特産魚介類の観光産業での利用拡大に向けた提案 ・観光産業の需給に応えられる地場産魚介類の供給体制づくり
04 佐渡の竹取物語推進事業	竹材の新たな活用方法を検討するとともに、良質な竹材を供給するための竹林整備手法を検証し普及することにより、竹関連産業起業の可能性を探るとともに、林地の保全、景観の回復を図る。	1 荒廃竹林整備実証調査 整備手法のマニュアル化に向けた実証調査	110	【成果・効果】 ・一連の処理作業(伐採～集積)に要する歩掛調査を行い、標準的な経費見積もりが可能となった。 ・佐渡市がバイオマスエネルギー資源として竹利用を検討中。 ・竹林所有者向けの平易なマニュアル(『荒廃竹林整備マニュアル』)を作成し、技術の普及を開始した。特に、佐渡林業実践者大学講座において受講生に対して細かい技術指導を行った。 ・岩首竹灯り等へ参加をし、ボランティアによる竹材利活用イベントへの満足度が 高いことを確認した。 【問題点・改善点】 竹パウダー(乳酸発酵)の竹林還元効果(対象区比較の優劣)は認められなかった。⇒ 調査手法の再検討を要する。 ・竹材利活用に向けて、島外業者や大学研究者を竹林に案内するもの、商談に至らなかった。⇒ 良質な竹材に向けた生産管理が必要である。 【今後の方針】 ・『荒廃竹林整備マニュアル』を利用し竹林所有者への普及活動をすすめる。 ・竹林整備実習を佐渡林業実践者大学講座へ組込む。 ・佐渡市が検討をすすめるバイオマスエネルギー資源としての竹利用について、資源育成の面で支援する。

平成24年度地域振興戦略事業調整費 事業結果一覧表

佐渡地域振興局

事業名	実施目的	事業内容	事業費 (千円)	事業評価及び今後の方針
05 地域コミュニティ 活性化支援事業	地域コミュニティ維持・活性化に向けて、優れた地域資源を活用しようとする意欲的な取組を支援し、他の取組を先導できる自立的・持続的なモデルを創出する。	地域コミュニティ活性化のための支援講座 (1) NPO等活動見本市での先進事例紹介(11/23開催) (2) コミュニティビジネス・セミナー(1/12開催)	333	【成果・効果】 ・NPO等活動見本市(参加者約400人)では、地域と若者の接点づくり、持続可能な集落モデルの先進事例を学び、参加者の活動に役立てることができた。 ・コミュニティビジネス(CB)セミナーは島内初の開催で、48名が参加、講義のほか、地域で解決したい問題のビジネスアイデア提案等のワークショップを通して、CBへの理解を深めることができた。 【問題点・改善点】 ・NPO・地域団体間の情報共有やネットワーク化の推進がさらに必要。 ・コミュニティビジネスや官民協働の理解の浸透や事業者への支援が必要。 【今後の方針】 ・地域資源の活用及び官民協働等について、引き続き勉強会等を行い実践につなげる。
06 朱鷺の暮らす GLAHSの郷づくり 事業	トキの餌場としての機能が十分に発揮される整備・保全管理手法の普及を通じて、地域コミュニティの維持・活性化を支援する。	朱鷺の餌場づくりの整備・保全管理手法の普及 (1) 餌場整備指針及び管理マニュアルの検証 (2) マニュアルの普及、印刷 (3) トキの餌場づくり研修会の開催 (4) 広報活動	497	【成果・効果】 ・これまでに島内で整備された餌場施設について検証を実施。調査結果を基に有効な整備や管理のあり方をトキの餌場整備リーフレットに取りまとめ提案した。 【問題点・改善点】 ・有効な整備手法を提案出来ても、整備する予算措置が困難。 【今後の方針】 ・トキの餌場整備について、研修会等を行い、取組の拡大に繋げる。 ・普及に向けた問題点の検討。
07 「大佐渡石名天然杉」魅力向上 事業	「大佐渡石名天然杉」が佐渡島の新たなトレッキングコースとして多くの方に利用されること等を目的に、各種イベントやPRを実施する。	PR資料作成 ・ガイドマップ、チラシ、DVDなどのPR資料を作成 ・パネルの修正等	1,450	【成果・効果】 ・DVDを作成したことにより、山岳系サークル等への周知を図る際に視覚に訴える資料として添付することができた。 ・チラシ、ガイドマップの増刷により、県内だけでなく県外での周知を図ったことにより、佐渡の新たな観光名所になってきている。 来場者:10,300人 【問題点・改善点】 ・H25オープンに係る事前調整と周知が課題である。 ・観光エージェン向け周知が必要である。 【今後の方針】 ・引き続き、島外への周知を行う
08 まちづくり推進事業	住民自らが地域の町並み景観を再認識し、これを生かしたまちづくりについて考え、実行することにより、観光に活用し、地域活性化を図る。	1 小木まちづくり活動の広報誌の町内設置への支援 2 まちづくり活動への協力	23	【成果・効果】 ・小木まちづくり活動を自主的に行う「小木湊まちなみの輪」が組織され、広報誌「buraogi (ぶらおぎ)」の配置等により、会員が増えてきている。 ・会独自で瓦版「おぎまる」を発行したり、イベントや活動を会です自主的に企画、運営が行えるようになっている。 【問題点・改善点】 ・小木については、特に問題はないが、本来のまちづくり活動まで至っていない。 ・島内の他地域でのまちづくり活動への支援や連携に至っていない。 【今後の方針】 ・小木湊まちなみの輪の活動に引き続き参加・協力するとともに、新たに町並みを活かした景観づくりに取り組む赤泊地区の活動にも参加協力をしていく。
09 小木・直江津航路 利用促進事業	小木・直江津航路の魅力を上向き利用促進を図る。	1 佐渡修学旅行説明会の開催 ・柏崎、魚沼地域の佐渡修学旅行実施校への個別訪問によるフォローアップ 2 小木・直江津交流促進事業 ・モニターツアーの開発造成、実証実験(3/22～24) 3 6地域振興局連携による誘客事業 ・誘客策調査、JRへの提案等	442	【成果・効果】 ①直接出向いて話をする事により、常連校に対するフォローができた。 ・実施日:11/26-28 訪問校:19校(柏崎市内、小千谷市内、出雲崎、弥彦、川口) ②両岸地域住民の取組が観光を軸として具体化してきた。 開催:3/22 参加者:13人、3/23 参加者:12人 【問題点・改善点】 ①戸別訪問だけでは新規開拓は難しい。説明会の設定が必要と思われる。 ②観光客の受入体制の拡充の取組を通じて両岸地区の住民の交流継続が必要である。 【今後の方針】 ①説明会の開催等により、上越地域の小学校の新規開拓を行う。 ②地域の自主性を尊重しながら、取組を通じた交流の深化を促進する。
10 佐渡の魅力発信 事業	金銀山遺跡やトキを始めとした、佐渡の持つ歴史・伝統や自然・文化などの観光資源を県内外に広く情報発信するとともに島民の観光に対する意識を醸成することで誘客の促進を図る。 また、効果的な情報発信を行うため、島内の情報発信力の強化を図る。魅力ある多様な観光素材を効果的に発信することにより、誘客促進を図る。	1 情報発信(イベント等での観光PR) ・JR東日本主催「佐渡こいちゃ市場」(高崎、大宮、上野、新潟) ・京急百貨店主催「大新湯展」 2 情報発信(チラシ等の配置による観光PR) ・高速道路SAでのトキ関連チラシの配布 3 情報発信ツール製作 ・金塊つかみ体験セット ・両津港佐渡汽船ターミナルにトキの菓等の展示	1,469	【成果・効果】 ・パネル展の実施や物産展における観光PRなどにより佐渡の魅力を発信できた。 佐渡こいちゃ市場(5/31-6/1、6/14-15、7/5-6、10/25-26)、京急百貨店(10/25-31)等 ・野生下でのトキのヒナ誕生のPRができた。 【問題点・改善点】 ・首都圏等での情報発信における魅力的な素材が求められている。 【今後の方針】 ・首都圏等でのイベント等で、来場者の関心を呼ぶ、興味を引き付けるツール作成を検討する。

平成24年度地域振興戦略事業調整費 事業結果一覧表

佐渡地域振興局

事業名	実施目的	事業内容	事業費 (千円)	事業評価及び今後の方針
11 「おもてなし」向上事業	従前から佐渡の弱点とされる「おもてなし」を向上し誘客を促進するため、観光関係者及び島民の意識啓発を図る取組を継続的に実施する。	おもてなし向上研修会 ・おもてなしに関するグループワーク及び石名天然杉現地研修を開催(3回)	300	【成果・効果】 ・観光客の立場に立った情報提供の考え方について学んでもらうことができた。 開催：9/6、11、13(各定員20人) ・参加者：9/6 29名、9/11 29名、9/13 29名 【問題点・改善点】 ・開催時期について、旅館関係者には繁忙期を過ぎているため、好評だったが、観光パスガイドは繁忙期に入るため、参加が得られなかった。 【今後の方針】 ・関係機関との協議などを行い、引き続き効果的な事業実施を検討する。
12 美しい景観を守る活動促進事業	佐渡の魅力である豊かな自然や美しい景観が将来にわたり維持されるよう、島民の環境保全意識を向上させ、自発的な環境保全活動を促進する。	1 啓発映像(TV番組)を用いた環境学習会の開催 ・H22,H23製作のTV番組(森林保全、不法投棄防止等)を利用 2 前記番組に関連した学習教材の作成 3 学校訪問等による活用の働きかけ 4 HP、共同チラシ等で情報発信	400	【成果・効果】 ・環境学習会参加者 島内の小中学生212名 ・島内学校40校にプログラム説明 【問題点・改善点】 ・学校の希望する教育プログラムと整合した授業内容の提案があるとより効果的。 ・講師等の経費負担について、企業等の支援等も含め検討が必要。 【今後の方針】 ・25年度はNPO法人が主体となって持続的な事業展開を実施する。
13 「花と緑の島づくり」支援事業	地域住民が主体となった「花と緑を活かした環境づくり」の取組を推進し、魅力ある環境の島づくりを推進するため、花をテーマにして地域の活性化を図る「佐渡・花の島プロジェクト実行委員会」を支援し、「美しい花の島・佐渡」の実現を目指す。	「佐渡・花の島プロジェクト実行委員会」負担金 1 普及啓発事業 ・カンゾウ定植、三島交流会等支援 ・花の島佐渡写真展の開催 2 地域花緑化活動支援事業 ・佐渡花緑化整備 (両津・赤泊港周辺の花緑化整備、両津港ウェルカムフラワー設置) ・地域活動グループ支援(17団体) ・共同花景観づくり活動支援(5団体)	240	【成果・効果】 ・佐渡市及び地域団体等との連携による事業実施により、花と緑を活用した環境づくりが図られた。 ・フォトコンテスト入選作品の写真展を島内外で開催し、花の島・佐渡の魅力をアピールできた。 ・「佐渡・花めぐりマップ」の増刷により、花の島・佐渡としての情報提供ができた。 【問題点・改善点】 ・花プロジェクトとしての活動が、構成団体個々の地域に留まっており、全島的な活動ができていない。 ・共同花景観づくりを継続することにより、花プロジェクトの活動をより一体的なものとし、佐渡全体に広がる活動となる様、さらなる構成団体への働きかけをする。
14 おもてなし玄関景観づくり推進事業	主要観光地での玄関口の整備や、主要構造物の案内板等を設置することにより、「おもてなし」の心を表す景観づくりを行う。	小本港佐渡汽船ターミナルの整備 ・出口付近にトキPRコーナーの設置 ・待合室内に観光PR資機材整備 (映画「飛べ！ダコタ」PRコーナーの設置) ・渡船橋に歓迎垂れ幕の設置、花の写真の掲示	451	【成果・効果】 ・小本港佐渡汽船ターミナルへの来訪者に対して、おもてなしの雰囲気を出すことができた。 ・トキのヒナ誕生の写真パネルや本物の巢の設置により、トキとの共生ルール等の周知にもつなげることができた。 【問題点・改善点】 ・予算に限りがあり、写真パネルは局内のプリンターで一般紙に出力したものを使ったため耐久性がなく、また最新の写真や季節にあった写真に絶えず交換していくなど、監理に手間がかかる。 ・トキの巢の展示は両津港の展示ケースでなく天井からのつり下げ型となり、間近で見学できないため、ケース等での展示方法を検討する必要がある。 【今後の方針】 ・両津港のおもてなし玄関整備(H25～)でサイン等を整備することとしており、小本港についても同調したサイン等、おもてなし玄関整備を進める必要がある。
14 健康長寿の島づくり食育推進事業	政策プランに掲げる健康づくりの支援の一つとして、生活習慣病の減少を目指し、健康的な食生活のための食育を推進する。	「さど食育フェア2012」(11/4開催) 【実演】「フルーツアート」 フルーツアートクリエイター 伊藤哲夫氏 【講演】 「料理は楽しくシンプルに！ ～暮らしの笑顔は食卓から～」 家庭料理研究家 奥蘭壽子氏 【体験】「フルーツアート体験」 フルーツアートクリエイター 伊藤哲夫氏 実演・講演終了後、抽選で15名に実施 【販売】 佐渡産野菜や果物の販売 【試食】 奥蘭氏監修レシピ3品 (白菜と豚肉のポン酢あんかけ丼、鮭のねぎ蒸し、キウイ寒天) 佐渡市学校給食統一献立レシピ1品 (酒粕汁)	476	【成果・効果】 ・講演と講演の中で紹介したレシピの試食をとおり、論理に基づいた減塩や野菜摂取量の増加の調理法等について、効果的に啓発することが出来た。 【問題点・改善点】 参加者が、もっと多いとより効果的であり、広報等を積極的に行う必要がある。 【今後の方針】 ・食育に関する事業をより効果的に住民に対して展開するためには、行政機関及び幅広い食育推進関係団体と連携・協働する必要がある。